

# 粘度測定・表示方法の提案

- 測定はE型粘度計が望ましいが、B型粘度計を用いても差し支えない。
- チューブを介して注入した栄養材を評価する場合には、チューブを通すなどして組織構造を破壊したサンプルを用いる。
- B型粘度計を用いる場合、サンプル量(測定容器)は200mL(200mLビーカー)を標準とする。
- 測定温度は20°Cとし、測定回数は3回とする。回転時間はE型1分、B型2分とする。
- 粘度を表示する際には粘度曲線を表示することが望ましい。なお、回転数やずり速度などの条件は必ず併記する。
- ずり速度は2~20sec<sup>-1</sup>(経口投与を想定するなら2~50sec<sup>-1</sup>)の範囲を表示することが望ましい。

2015年10月末まで

当研究会事務局までEメール(jsfsn@fujita-hu.ac.jp)でご意見をお寄せ下さい。